

道連ニュース

2019年2月号 No.151

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2018年度第3回理事会・新春学習会・ 新年交礼会報告

1月24日、第3回道連理事会を生活クラブ二川理事の議長で開催致しました。

開催前に、JA北海道中央会飛田会長より北海道胆振東部地震緊急支援募金贈呈に対し麻田会長へ感謝状贈呈が行われました。議決事項は①2019年度業務委託契約の件②2019年度道連会費の件③2019年度年間スケジュールの件④適格消費者団体ホクネットへの特別寄付金について⑤大学生協事業連合の加入について⑥次回理事会運営の件⑦道連役員改選について承認されました。審議事項では、①2018年度北海道胆振東部地震支援募金の取り組み報告と支援金第2次配分について、1月24日現在148生協・連合会365,354,407円の支援募金が寄せられており、1次分を除いた165,354,407円について、義捐金として厚真町・安平町・むかわ町・日高町・札幌市・北広島市・北海道に153,747,691円を、支援金として11,606,716円を配分する（3町への支援活動費2,606,716円、被災地への支援する団体への活動基金としてコープ2018年北海道地震ボランティア応援基金（仮称）設立）が承認されました。②協同組合間連携の取り組みと協同組合連携ネット北海道（仮称）発足にむけた取り組みについて③LPガス問題の取り組みの到達点と今後の方向④2018年度活動のまとめと2019年度活動計画（素案）について提案され、確認されました。報告事項では、①一般活動報告②役員補充選任に関する臨時総会開催報告③12月決算報告④上期監事監査報告⑤福祉問題を総合的に考える委員会活動報告⑥灯油要請行動⑦ヒバクシャ国際署名の取り組み⑧アニマルウェルフェア（家畜動物福祉）学習会開催報告等の報告がありました。



「JA北海道中央会 飛田会長より、麻田会長へ感謝状贈呈」

<新春学習会>

「いま、協同組合に何が必要か」という演題で、北海学園大学経済学部 佐藤 信（さとう まこと）教授を講師にJAグループ北海道、労働金庫、全労済など友好団体110名の参加で開催致しました。佐藤教授の研究テーマは非営利・協同組織の役割に関する研究であると同時に北海学園生協の理事長もなされ、生協運営についての問題意識をもとに、①協同組合に浸透する「商品化」の懸念②改めて協同組合の組織化に取り組む③共同と協同、連係と連携の違い④北海道の協同組合陣営への期待と展望について、お話いただきました。

同質化競争における協同組合の価値と役割の教育や啓蒙の重要性と役職員の姿勢について確認できた学習会でした。



<新年交礼会>

新春学習会終了後、道連役員・理事と友好団体31団体62名の出席で開催致しました。

麻田会長の挨拶の後、JA北海道中央会高橋参事より、包括連携協定締結の意義と今後の連携にむけた期待、北海道労働金庫林 副理事長の学習会を通じ、協同組織の役員としての矜持と連携への参画に関し来賓あいさつをいただきました。参加した友好団体から19年度の取り組み含めたテーブルスピーチと情報交換が弾み、盛り上がった新年交礼会となりました。

福祉講演会「北海道の子どもの貧困について～ 子どもの生活実態調査をふまえて」

参加人数176人（札幌会場65人+TV会議地方会場111人）

講師：北海道大学大学院教育学研究院
助教 上山 浩次郎氏
日時：2018年12月14日（金）10:00～12:00
主会場：コープさっぽろ宅配中央センター - 3階
（全道22箇所の店舗・宅配センターをテレビ
会議方式で結び開催）
主催：公益財団法人 コープさっぽろ社会福祉基金
共催：北海道生活協同組合連合会、コープさっぽろ
組合員活動委員会
後援：札幌市教育委員会、北海道で働こう応援会議、
北海道奨学金ネットワーク

今回は北大大学院上山先生をお招きし、「北海道の子どもの貧困について」と題し、子どもの貧困についての国際比較、国内比較について学習しました。また北海道大学と北海道・札幌市が連携して2016～2017年に実施した「子どもの生活実態調査」の結果についてお話を伺いました。

積雪等交通状況悪い中、全道各会場に多くの参加があり、また質疑応答でも活発な質問、意見が発せら

れ、子どもの貧困に対する関心の高さが感じられました。現状のこどもの貧困に対する問題意識や行政への憤り、今後の対策に対する期待感が、多くの発言に繋がったと思います。

2013年に施行された子どもの貧困対策法は「施行5年後（2019年）に必要な検討・措置を講ずる」ことになっているとのこと。すべての問題は「事実を知ること」から始まります。今回の学習会はその第一歩として意義のある機会となりました。



❁ 困難な中で子ども達の笑顔に！ ❁

❁ 優しさと繋ぎ方を学習交流！ ❁

❁ 「こども食堂北海道ネットワーク第7回交流会」！ ❁

12月10日（月）全労済会館2Fにて60名を超える参加者にて第7回の「こども食堂北海道ネットワーク」交流会が開催されました。胆振東部地震の影響で第6回交流会を中止せざるを得ませんでした。第7回は札幌市での「子どもコーディネーター」の取り組み報告や「ぴらけし子ども食堂」主宰者、塚本さんの実践報告を学び交流すべく沢山の運営団体、支援事業者、福祉部局の皆さんが集いました。食堂を通じた子供との出会いの中で見えてきた「現実」を子どもや親御さんの視点でどの様に、何処に繋げていくのか？札幌市の

実践の中から見えてきた事を札幌市子ども未来局奥田さん、コーディネーターの沢村さんの報告から学び、加えて塚本さんの「ぴらけし子ども食堂」運営の基本視点や今後の構想等、各運営者さんへは大変貴重で且つ刺激になった学習交流会となりました。

道内全域からの参加で30を超える

「こども食堂ネットワーク」へ！

年が明けて、本日も「中頓別町」からこども食堂北海道ネットワークへの加入と「子ども食堂保険」への加入登録がありました。道内には120ヶ所を超える子ども食堂の存在が云われており旭川・帯広・釧路の各エリアとの繋がりネットワークがゆっくりですが進みつつあります。「子どもの貧困」をめぐる行政の多様な取り組みとも連携しながら今後も安全で安心できる子ども食堂の実態を確保できる「こども食堂北海道ネットワーク」の活動を推進して行きたいと考えております。会員各生協の支援を今後とも宜しくお願い致します。

（事務局 松本）

